

NO. 24

ね じ れ ば ね

September, 1967

昭和42年9月30日 以行

編輯者： 後 藤 光 男

大阪府高石市高師浜2丁目4-4

電話 堺61局5374番

日本甲虫学会

神戸市東灘区御影町天神山46

新 入 会 員

479

480

481

482

483

484

485

486

487

488

489

490

491

492

住 所 変 更 (表示変更を含む)

426

60

273

434

225

399

450

195

379

12

209

307

68

124

401

95

475

161

442

52

437

396

27

67

280

261

324

420

474

271

290

208

457

338

314
148
376
10
75
453
405



再 入 会

325
180



退 会

422
473
334
256



認 定 退 会

302
357
370
228



昭和41年度収支決算書

(自昭和41年1月1日
至昭和41年12月31日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	120,650	印 刷 費	93,538
バックナンバー代	44,250	通 信 費	20,099
別 刷 代	3,050	消 耗 品 費	6,630
図 鑑 印 税	43,200	大 会 費	6,860
雑 収 入	17,345	幹 事 会 費	2,500
前期繰越金	316,030	雑 費	12,895
		次 期 繰 越 金	402,003
合 計	544,525	合 計	544,525

特別会計

(会報発行基金)

昭和41. 1. 1.	前期繰越金	35,267.9
3. 26.	信託利益(40年9/26 ~ 41年3/25)	11,218
9. 26.	信託利益(41年3/26 ~ 41年9/25)	11,574
12. 31.	次期繰越金	<u>375,471</u>

上敷用の白色ポリエチレンフォームについて 後藤光男

昆虫の標本箱という桐製コルク板敷のものが常識であつたが、最近では合成樹脂製の底にポリエチレン板を敷いたものが発売された。しかし種々難点があつてまだ完璧とはいえないようである。志賀昆虫普及社からも桐製6mm厚の白色ポリエチレンフォームを敷いた標本箱が「昆虫と自然」1967年2月号に新製品として紹介されて、同時に従来のコルク板敷の上に更に敷くことのできる2mm厚の白色ポリエチレンフォームも発売された。私は以前から標本箱の内装について関心をもっていたので、早速6mm厚敷の標本箱と2mm厚の上敷用ポリエチレン板を買い求めて試みてみたが、なかなか具合がよいので思いついた点を述べてみたい。

6mm厚敷の標本箱は普通底にコルク板が敷いてあつたのを白色ポリエチレンの6mm厚に敷替つただけで、こちらで手を加える必要がなく使用できる。私のようにコルク板の上に白色艶紙や3mm方眼紙を敷いて標本をより美しく見せようと苦勞しているものには便利である。永年コルク板に針を差し続けた私にはその感触がソフトすぎて何か物足りなく、湯戻しした高野豆腐に針を差しているようであるが、針の安定度はコルク板より高く申し分がない。

2mm厚の上敷用はポリエチレンの板だけが売られていて、これをそのままコルク板の上に敷くだけでは駄目でコルク板の上に貼り付けなければならない。貼りあげた感じは6mm厚と何等変りなく針差しの時6mm厚が底までスーツと針先が入るのに、2mm厚では下のコルクに針先が届く時に一寸抵抗を感じる。針を抜いた跡はしばらくしてポリエチレンの組織が旧に復するから、白色艶紙や方眼紙のような針穴がいつまでも残らない利点がある。手近の薬品で試みたところ、アルコール・ベンジン・醋酸アミール・醋酸エチール・ナフタリンでは変化が見られなかつたのに、パラジクゾールベンゾールの粉末をそのまま入れて置くとポリエチレンがふくれ上つてしまつた。セロファン包のパラ錠を標本箱の隅に針止めにした場合は変化は見られなかつたから、パラジクゾールベンゾールの直撒きは慎しむべきであろう。数多く2mm厚ポリエチレンフォームを、独乙式・甲虫専用印籠型・ガラス蓋式に貼つてみた経験で今後ポリエチレンフォームを上敷用として利用される方々のために思いついたことを、2,3述べて参考に供したい。

1. ポリエチレン板に組織が荒い方と細かい方の2種類があるようで、細かい方の貼上りは白一色であるのに反し、荒い方は下のコルク板が透けて見えるようである。
2. 接着剤はいろいろ市販されているので各種試みてみたが、志賀昆虫普及社より教示された木工用セメダインホワイトが一番適しているようである。
3. ポリエチレン板の切断は安全カミソリの刃が一番適していて、その切断は標本箱の内寸より更に1~2mm短かめに切断した方がよい。あまり内寸通りに切断していると、切断面の組織が自然に膨脹してくるから、内面積よりプラスチック板の方が拡くなり接着剤の乾燥が進むにつれて思わぬ部分がふくれ上つてとりかえしのつかない失敗となる。
4. 接着剤は必ずコルク板の面に斑なく塗ることが必要で、ポリエチレンの裏面に塗るとその組織に接着剤が入り込むから、多量の接着剤で少数のポリエチレン板しか貼れない結果になる。
5. 切断・接着と作業が進めば最後はできるだけ内寸法ぎりぎりにより重量の重しを時間をかけて接着剤の自然乾燥を待つた方が仕上りは美麗である。

以上手許の標本箱に上敷用の2mm厚ポリエチレンフォームを貼り付けて6カ月経過した現在、何の変化も見られないので筆をとつたが、今後更に一年二年と年月を得た都度報告したいと思つている。